

ベトナムが 10 年ぶりに国防白書を発刊——南シナ海問題が焦点に

庄司 智孝 地域研究部米欧ロシア研究室

NIDS コメンタリー

第 108 号 2020 年 1 月 7 日

はじめに——10 年ぶりの発刊

2019 年 11 月 25 日、ベトナム国防省は最新の国防白書『ベトナムの国防 2019』を発表した¹。発表に際して国防省は記者会見を行い、会見ではグエン・チー・ヴィン (Nguyễn Chí Vịnh) 国防次官による司会のもと、グエン・ヴァン・タン (Nguyễn Văn Tân) 国防戦略院副院長が白書の概要を紹介した。記者会見でヴィン次官は、白書で示されたベトナムの国防政策の基本方針を「平和と自衛」の言葉に集約した²。

ベトナムはこれまで 1998 年、2004 年、2009 年と 3 回にわたり国防白書を発刊してきたが、今回は前回から 10 年もの間を置いて発刊された。白書第 4 版は当初、初版から第 3 版までの発刊周期を念頭に、2015 年～2016 年頃に発刊を予定されていたが、延期となっていた³。今回の記者会見において、ここまで発刊が延びた理由については特に明らかにされなかったが、2010 年頃を境に南シナ海における中国との緊張が高まるなか、ベトナムとしてこの問題を安全保障認識や国防政策の中にどのように位置づけ、対外的に明らかにするかについて、国防省内、ひいては政府や共産党を含めた政治指導部内での意見集約と調整に多くの時間を費やしたのではないかと筆者は推測している。

白書の構成——国防政策、国防態勢、人民軍と非正規軍

最新版白書ベトナム語版は全 135 ページで、3 部構成 (第 1 部「戦略の背景と国防政策」、第 2 部「全人民国防態勢の建設」、第 3 部「ベトナム人民軍と

自衛民軍) になっている。全体の分量や構成は、2009 年度版とほぼ同じである。

第 1 部「戦略の背景と国防政策」は、グローバル、地域、ベトナム 1 国それぞれのレベルの戦略環境を概括し、こうした戦略環境を背景に、各種安全保障課題に対処するためのベトナムの国防政策を論じている。第 2 部「全人民国防態勢の建設」は「全人民国防」の概念のもと、政治、経済、文化、科学技術といったあらゆる分野と国防を関連付け、正規軍 (人民軍) や予備役 (自衛民軍) をいかに効果的な国防組織として維持発展させるかを論じている。ここでは、国防における共産党の指導性が特に強調されている。そして第 3 部「ベトナム人民軍と自衛民軍」は、ベトナム人民軍の歴史から説き起こし、現在の任務や組織を紹介している。各部のバランスとしては、第 3 部に最も多くのページが割かれており、人民軍の組織の概要と各機関の情報が豊富に記載されている。

ベトナムの安全保障認識——3 つのレベル

最新版白書第 1 部において主として示されている、ベトナムの安全保障認識は、次の通りである。

- ・グローバルなレベルでは、平和、国家の独立、民主主義、協力、開発は依然として大きな趨勢であり、国際社会の目標である一方、21 世紀初頭から現在まで、世界の政治、経済、安全保障では、複雑で予測困難な変化が続いている。国家主権の侵害、領土と資源の紛争、民族と宗教の対立、政権転覆、テロリズム、局地戦争、サイバー戦争や

非伝統的安全保障の諸課題が、世界の各地で新たな問題を引き起こしている⁴。

- ・アジア太平洋地域は、躍動的な経済発展の中心地であり続け、地経学的、地政学的、戦略的にますます重要な位置を占めるようになってきている。近年この地域では「自由で開かれたインド太平洋」、「一帯一路」構想、「アクト・イースト」政策が多く国の関心を集めている。しかし、この地域は依然として、大国が激しい影響力競争を展開する場所であり、潜在的に多くの不安定要因が存在する。領土主権をめぐる紛争はより複雑化し、地域の安定、平和および発展を脅かす。サイバー、テロ、エネルギー、水、食料、気候変動、自然災害、伝染病、密輸などの非伝統的安全保障課題も深刻である⁵。
- ・ベトナム 1 国としては、ドイモイ（刷新）事業の開始から 30 年を経て、社会と経済は大きく発展した。対外関係については全方位外交を展開し、特に ASEAN の一員として、国際社会での信用を高めた。中国、ラオス、カンボジアといった隣国とは、陸上国境の画定を含め、関係の安定化に努めた。しかし、ベトナムは依然として、脆弱な経済システム、政治体制転覆の策動、南シナ海問題といった多くの安全保障課題に直面している⁶。

このように白書は、グローバル、地域、1 国の 3 つのレベルに分けてそれぞれの戦略環境を考察しているが、どのレベルにおいても領土主権の問題に言及していることは、南シナ海問題を重視するベトナムの姿勢を示しているといえよう。

南シナ海問題——安全保障認識と国防政策における位置づけ

今回の白書で最も注目すべき点の 1 つは、南シナ海問題に初めて具体的に、かつ多くの紙幅を割いて言及した点であろう。同問題は疑いなく、現在のベ

トナムにとって安全保障上最大の懸案である。まず中国との関係を説明した部分において、ベトナムは南シナ海情勢をこのように形容している。

南シナ海の領有権問題におけるベトナムと中国の相違は、両国の平和、友好、協力関係の大局に悪影響を及ぼさないよう、きわめて用心深く、慎重に処理する必要がある。南シナ海の紛争の解決は、多くの国と当事者が関与するため、長く、困難で複雑なプロセスである⁷。

こうした状況認識を背景に、南シナ海問題の解決にあたってベトナムが提示する方法は「国際法に基づく平和的な解決法を探る協議」であり、国連海洋法条約 (UNCLOS) に特に依拠し、ASEAN と中国間の南シナ海行動宣言 (2002 年) を着実に実行し、行動規範 (COC) の締結を目指す。2 国間レベルでは「海上問題の解決の基本指導原則に関する合意」 (2011 年) を遵守する。またベトナムは、南シナ海における航行の自由を支持し、海域の軍事化に反対する⁸。

続いて、ベトナムが直面する安全保障課題としての南シナ海問題の説明は次の通りである。

南シナ海の最近の情勢として、いくつかの前向きな変化はあるものの、不安定性、緊張の要因が依然として存在し、複雑な変化がベトナムの主権と領土の防衛、平和と安定の維持にとって新たな問題を提起している。南シナ海における新たな変化、特に力による、国際法によらない一方的な活動、軍事化を進め、現状を変更し、国際法に基づくベトナムの主権、主権に準ずる権利、管轄権を侵害する行動は、関係国の利益に影響を及ぼし、地域の平和、安定、航行の安全を脅かしている。さらに、大国間の戦略的競争はますます激しくなり、南シナ海は時に「ホットスポット」になり、軍事衝突のリスクさえある⁹。

ここでは名指しこそしないものの、中国による島

嶼の軍事化その他の活動を強く批判し、米中対立の焦点の 1 つとして南シナ海情勢が悪化することに対するベトナムの強い警戒心と危機感が表れている。こうした情勢認識に基づき、ベトナムがとるべき国防政策とは何か。白書は次のように論じ、問題の平和的解決を繰り返し主張している。

ベトナムは、パラセル諸島とスプラトリー諸島に対する主権、南シナ海の排他的経済水域および大陸棚に対する権利を証明するのに十分かつ明白な歴史のおよび法的証拠を有する。ベトナムは国際法に従い、領海に対する主権、主権に準ずる権利、および管轄権を断固として堅持する。ベトナムは、ベトナム・中国間の「海上問題の解決の基本指導原則に関する合意」を順守し、ASEAN 諸国とともに全面的かつ効果的な DOC の実施を継続し、中国との COC 早期締結に努力する。海でのトラブルをうまくコントロールし、事態を複雑化し、紛争を拡大する行動を慎み、南シナ海の平和と安定を維持する¹⁰。

ベトナムは、10 年かけて、かつその間に南シナ海をめぐる情勢が大きく悪化するなか、自らの取るべき方策として上記の結論を出した。ベトナムは、好戦的な態度や蛮勇を厳に慎み、中国の軍事的台頭や米中対立の激化が自らの安全保障にもたらす意味をよく理解しつつも、自らの立ち位置を見極め、状況の好転、ひいては問題の解決には長い時間をかけた平和的手段しかない、との結論を出したのである。

「3つのNo」から「4つのNo」へ——その含意

国防政策を含むベトナムの南シナ海政策の基本方針は、「4つのNo」の指針にも反映された。ベトナムは従来、自らの国防政策の基本方針として「3つのNo」を提唱していた。「3つのNo」とは、同盟関係を結ばない、外国軍の基地をベトナムに置かない、2 国間の紛争に第 3 国の介入を求めない、であった。「3つのNo」は、南シナ海問題の再燃を背景に、ベトナムが米国との安全保障協力に本格的に

乗り出した 2010 年、ヴィン次官が訪中時の記者会見で明らかにした方針であった。ベトナムは米国との協力を進める際、自らに制約を課して基本方針として定め、中国を含む国際社会に示した。そこには、中国を過度に刺激することなく牽制する、ベトナムのバランス感覚が表れていた。

今回、新たに「第 4 の No」として「他国との関係において武力の使用や威嚇を行わない」が付加され、ベトナムは「3つのNo」を「4つのNo」に拡大した¹¹。4 つ目の「No」は再度、南シナ海問題を解決するにあたってのベトナムの基本方針（軍事的対応によらない解決）を（特に中国に対して）示したと解釈できる。

しかし、「4つのNo」には 1 つの留保条件が付く。その条件とは次の通りである。

状況や具体的な条件の変化に応じて、ベトナムは、他国と必要かつ適切な国防軍事協力関係を発展させる。それは互いの独立、主権、領土の統一と一体性の尊重、国際法の基本原則、互恵的協力、地域と国際社会に共通の利益、といった諸原則に基づく¹²。

このようにベトナムは、国防に関連する問題について平和的な解決を強調する一方、領土領海の問題では決して妥協することはなく、最後の手段としてより進んだ軍事協力を示唆している。しかしこれは、あくまでも最終手段である。

おわりに——安全保障の「自主独立」を貫くベトナム

南シナ海における中国の台頭と軍事的伸長に関し、ASEAN における「最大の被害者」は、ベトナムであろう。中国と陸も海も接しているベトナムは、中国からの「地理の暴虐」¹³に常にさらされ、この地理的条件が変わることは決してない。

2014 年にベトナムは、パラセル諸島近海で中国が巨大石油掘削プラットフォームを設置したことに激しく反発し、海上で大立ち回りを演じた（オイ

ルリグ事案)。5年後の2019年には、ベトナムがロシアと共同開発を試みるスプラトリー諸島ヴァンガード礁近海で、散発的に中国からの激しい妨害活動にあっている。ベトナムも、礁近海は本土から起算した自国 EEZ 内の海域と主張し、中国の妨害活動にしぶとく抵抗を続けている。こうした困難な状況にあっても、むしろそれゆえに、ベトナムの国防政策の基本方針は「平和と自衛」であり、例えば他

国との軍事同盟はとるべき選択肢に入っていない。植民地独立闘争に30年もの月日を費やし、フランスや米国との戦争を戦い抜き、冷戦末期には中国との激しい対立と厳しい国際的孤立を経験したベトナムが得た歴史的教訓は、自主独立である。その精神は、新たな国防白書にも脈々と受け継がれている。

(2019年12月19日脱稿)

¹ Bộ Quốc phòng, Cộng hòa Xã hội Chủ nghĩa Việt Nam, *Quốc phòng Việt Nam 2019*, Hà Nội: Nhà Xuất bản Chính trị Quốc gia. 当該白書はベトナム語版と英語版が同時に発刊された。なお、白書全文はベトナム国防省 HP でも公開されている (<http://mod.gov.vn/wps/portal>)。

² “Công bố Sách trắng Quốc phòng Việt Nam 2019,” *Quân đội Nhân dân*, ngày 25-11-2019. 国防戦略院 (Viện Chiến lược Quốc phòng) は白書の制作を担当する国防省の研究機関である。

³ “Chuyên gia: Việt Nam công bố ‘Sách trắng quốc phòng 2019’ rất đúng lúc,” *Radio Free Asia*, ngày 27-11-2019.

⁴ *Quốc phòng Việt Nam 2019*, tr. 11.

⁵ *Ibid.*, tr. 13.

⁶ *Ibid.*, tr. 14-21.

⁷ *Ibid.*, tr. 18.

⁸ *Ibid.*

⁹ *Ibid.*, tr. 20.

¹⁰ *Ibid.*, tr. 32.

¹¹ *Ibid.*, tr. 25.

¹² *Ibid.*

¹³ Carlyle A. Thayer, “The Tyranny of Geography: Vietnamese Strategies to Constrain China in the South China Sea,” *Contemporary Southeast Asia*, vol. 33, no. 3 (December 2011), pp. 348-369.

プロフィール

profile

地域研究部

米欧ロシア研究室

室長 庄司 智孝

専門分野：東南アジアの安全保障

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。

NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3260-3011

代 表：03-3268-3111 (内線 29171)

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp/>